

千葉歴史の散歩道

かたちなきものを伝える困難さ ～コロナの中の無形民俗文化財～



千葉県教育振興部文化財課文化財主事 ^{しもいなば} 下稲葉 さやか

昨今の新型コロナウイルスの感染拡大により、私たちの生活は大きく変化した。その影響は文化財の分野にも及び、なかでも無形民俗文化財への影響は特に深刻である。

さて、民俗文化財は多様である。分かりやすい例だと「佐原の大祭」などの歴史あるお祭り、獅子舞や神楽のような民俗芸能のほか、お正月に行う行事などの年中行事、大凧揚げのような習俗もある。その他に、地域に受け継がれてきた生業や衣食住に関する民俗技術、例えば井戸掘りの技術である「上総掘りの技術」なども含まれる。このうち、お祭りなどに使う道具や、民具などは「有形」の民俗文化財とされる一方で、踊りの形や、行事の作法、民俗技術の「わざ」のように、人の動きに宿る、形が無いものは、「無形」の民俗文化財とされ、人から人へ教え伝える形で受け継がれてきた。

無形民俗文化財の多くは、年間の決められた日に決められた場所で実施されるため、その実施時に多数の参加者や見学者が集まることになる。そのため、いわゆる3密（密閉・密集・密接）を回避し、人との接触を控えるよう求められたコロナ下では、例えば山車を曳き神輿を担いで町内を回るようなお祭りや、不特定多数が見学する芸能の公開などの多くが中止となった。しかし実情は、さらに深刻である。コロナ下では、民俗芸能の練習などのために人々が集うことが難しくなってしまった。感染対策をして集まっても、人と

距離を取るため通常の形が練習できない、楽器演奏の制限、集会への近所の厳しい目が気になるなどの問題が出てきた。そして、同じ保存会内でも、世代や立場によりコロナ対策への意見が割れて苦労したという話も聞く。練習ができないと、人の動きや踊りの形、わざ、技術などが変化したり、忘れられたりしてしまう。そして長い期間にわたり人々が集えないと、人から人へ教え伝える機会が減少し、文化財の継承が難しくなる。さらに、後継者の不在、少子化により子供が行う行事ができない、道具や衣装の老朽化といった以前からの問題を抱えていた文化財は、コロナ下で継承がより困難になりつつある。それでも、文化財を自分の代で絶やさぬよう、継承者の方々は努力を続けられている。

このような中で、多くの人々が地域の行事の中止を残念に思い、無形民俗文化財の大切さに改めて気付くことで、継承への関心が高まりつつあると感じる。また、地域の無形民俗文化財をインターネット動画で見たいという声もある。ある保存会の方は、まずは地元が無形民俗文化財を知り、興味を持ってほしいとおっしゃっていた。これを機に、先人が伝えてきた無形民俗文化財に目を向けてみてはいかがだろうか。なお、無形民俗文化財の動画は県教育委員会でも公開を進めており、県文化財課や東京文化財研究所のWebサイトに一部が視聴可能なので、ぜひご覧いただきたい。

千葉教育 桜 (No. 673) 令和4年3月17日発行

編集・発行 千葉県総合教育センター (代表) 酒井 昌史
〒261-0014 千葉市美浜区若葉2-13 TEL 043-276-1204
URL <https://www.ice.or.jp/nc/>
印刷所 千葉市療育センター いずみの家
〒261-0003 千葉市美浜区高浜4-8-3 TEL 043-216-2465